

## 道総研水産研究本部が新たに取り組む研究課題

平成30年度に道総研水産研究本部各水産試験場が行う主な新規研究課題を、下記一覧表に示しました。

今回は、この中から重点研究課題である「日本海産ホタテガイの韓国向け活貝輸送技術の開発」の研究概要について、ご紹介します。

平成30年度 新規研究課題一覧（2018年4月1日現在）

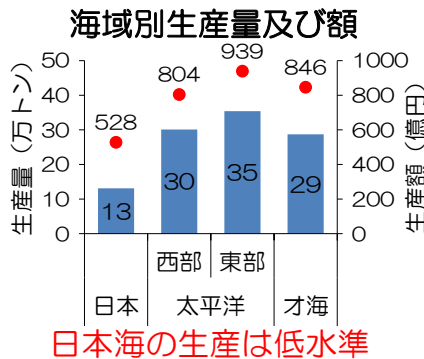
研究制度	課題名	年限	担当試験場
重点研究	日本海産ホタテガイの韓国向け活貝輸送技術の開発	H30-32	中央
	道産プリの加工利用を促進させる高次加工品製造技術の開発	H30-32	網走
職員研究奨励	底魚資源管理支援システムの高度化研究	H30	稚内
	水産物の新たな加工法開発試験	H30	釧路
	電磁波解凍による道産冷凍水産物の形態、食感保持の試み	H30	中央
	時空間的な関係因子を組み込んだ秋サケ来遊予測手法の開発	H30	さけます・内水面
	北海道のギンザケに発生したヘルペスウイルス病の防疫対策に関する基礎的研究	H30	さけます・内水面
	アイナメ科魚類の養殖種苗生産の基礎技術開発研究	H30	栽培
	アワビを殺さずに餌環境を評価する指標の開発	H30	中央
	環境DNAを用いたサケマス生息量の推定手法開発	H30	さけます・内水面
	養殖マガキの早期出荷技術の普及	H30	釧路
経常研究	アーカイバルタグを用いたホッケ道北系群産卵生態の解明	H30-32	稚内
	資源増大Ⅲーマナマコ種苗放流技術マニュアル化試験ー	H30-34	中央、函館
	養殖コンブ生産安定化試験Ⅱ（養殖コンブ収穫期におけるモハネガヤの付着量変動要因の解明）	H30-33	函館
	北海道産小型海藻の陸上養殖にむけた基礎研究	H30-31	稚内
	被覆網を用いたアサリ天然採苗稚貝の放流技術開発	H30-33	中央、釧路
	マナマコの保管条件と製品品質に関する試験	H29-30	中央
	サクラマス資源の持続的利用に向けた環境修復効果の評価と資源評価手法の開発に関する研究	H30-34	さけます・内水面
	DHA高含有魚油添加によるサケ・マス回帰率向上効果の検証	H30-34	さけます・内水面
	北海道の動物性タンパク質源を活用したチョウザメ養殖用高性能低魚粉飼料の開発	H30-32	釧路、さけます・内水面
	道産内水面養殖ニジマスの刺身商材としての品質・食味特性の解明と評価技術の開発	H30-31	網走
	羅臼コンブの熟成プロセスの把握と新たな出汁コンブ加工技術の開発	H30-32	釧路
一般共同	天塩川水系パンケ沼におけるヤマトシジミの人工種苗による資源回復対策研究2	H30-31	栽培、さけます・内水面
	新たな生物ろ過を用いたサケ科魚類の閉鎖式循環飼育技術の開発2	H30-31	さけます・内水面
公募型	ワカサギ資源回復のための放流種苗用餌料と資源推定手法の開発	H30-34	釧路、栽培、さけます・内水面
	ホタテ未利用資源等を用いたサケ科魚類増養殖魚の質的向上に関する研究	H30-31	釧路、網走、栽培、さけます・内水面

# 日本海産ホタテガイの韓国向け活貝輸送技術の開発 (重点研究 H30~32)

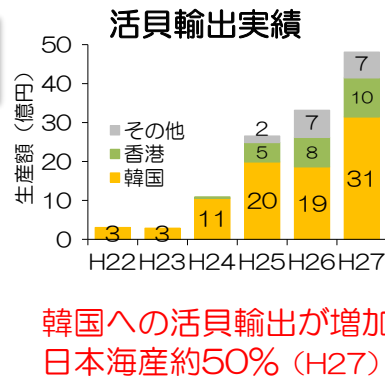
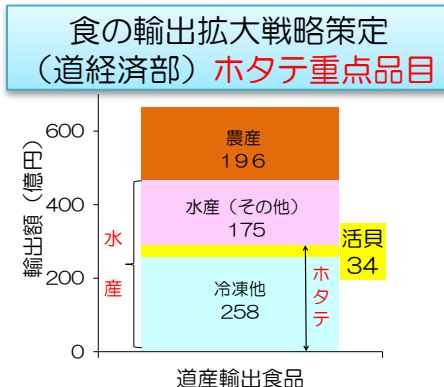
水研本部 中央水試 加工利用部 武田忠明・成田正直  
産技研本部 食品加研七 食品開発部 古田智絵・吉川修司  
協力機関：小樽市漁協、岩内町、道水産林務部水産経営課

**目的** 日本海産ホタテガイの活貝を高品質で韓国に輸出するための輸送技術を開発する。

**背景** (1) 日本海漁業振興との関連



(2) 食の輸出拡大との関連



**相手**

漁業者 (生産) 仲買人 (購入・出荷) 輸出業者 (輸送・上市) 韓国商社 (購入・販売)

**現状**

- 活貝生産量：約3千t (H27)
- 生産増加期：4月～9月
- 手段：活貝輸送車で陸海上輸送 (3～5日間)
- 経路：生産地 → 小樽 → 舞鶴 → 福岡 → 韓国
- 品質要件：**活きた貝**
- 需要増加期：4月～9月

**課題**

- 7月～9月：高水温
  - 漁獲～輸送水槽：空中放置
  - 収容密度：高
  - 水質低下
  - 生存率低下 (**90%以下**)
  - 不快臭発生
- 貝の活力低下 輸送条件

**解決**

- 空中放置条件を検討
  - 収容密度や水清浄度の検討
  - 韓国輸送試験
- 活力維持条件の決定 輸送中の蓄養環境の決定 品質評価とコスト試算

**成果** 高品質な貝の輸送技術確立。

輸出拡大による日本海生産者及び輸出業者の収益増加

